

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・(2桁)÷(1桁)と(3桁)÷(1桁)で，始めの位に商が立つ筆算の仕方について理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・上の位から束をばらしながら割り進めていくことを学習している

≪学習問題≫

252まいの色紙を６人で同じ数ずつ分けると，

一人分は何まいになりますか。あまりはありますか。

教材研究ノート№4-A-2

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 百の位に商が立たない。

→100の束を10の束10こに分ければ，分けられる。

②学習課題:100の束を10の束にわけて10の束20個にして，252÷2の筆算の商をかく位置を考え，計算しよう。

③個人追究:始めの位に商が立たないことから，操作と関連させながら商を立てる位置を考え，追究する。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

「みんなの考え方で共通していることはどこだろう？」

→「10の位の上に商を立て，答えを2桁にしている。」

　「今までと同じように，順に小さな位にして割っている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「始めの位に商を立てて，042にしなくていいのだろうか？」

→「数字は最初に0は書かない。10の位からで42でよい。」

「100の束2つは6人に分けられない。10の束を25にして分けるから，10の位の上に商がくる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・始めの位に商が立たないとき，大きな位の束を小さな位の束に分けなおして，小さな位から商を立てればよい。

・筆算は，割られる数が増えても同じように手かくし法で割れるかどうか確かめながら，順に小さな位に考えていけばよい。

⑥定着･活用問題

(1)738÷6，168÷3の商は，そ (2) 左のような計算で

れぞれ何けたになりますか。　　　　　　　答え「4あまり3」

答えとその理由を説明しま　　　　　　　　とした。これでよ

しょう。　　　　　　　　　　　　　　　　いでしょうか。

 4

6）243

 24

 03

 0

 3

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，始めにどの束から分けるか問いかけて，前時(始めの位に商が立つ筆算)との違いに着目させ，商がどの位から立つか色紙を使って見当付けさせることを大切にしたい。

・色紙を分けたときの操作を筆算の形式に当てはめ，筆算の手順を関連させながら商の立つ位置を確認させたい。こうした活動を通し，割られる数の桁が増えても今までと同じやり方で計算できることに気付かせたい。